



第93回定時株主総会

2023年6月20日

株式会社 エフ・シー・シー

■報告事項■

1 第93期事業報告、連結計算書類ならびに
会計監査人および監査等委員会の連結計
算書類監査結果報告の件

2 第93期計算書類報告の件

■決議事項■

議案

取締役(監査等委員である取締役を除く。)
6名選任の件

議事の運営について

1

報告事項のご報告

2

議案の上程

3

報告事項に関する質疑・議案の審議

4

議案の採決

報告事項

企業集団の 現況に関する事項

■経済状況■

前年度からの持ち直しの動き続く

供給面での制約、物価上昇、金融資本市場変動

日本



緩やかに持ち直し

米国



持ち直しの動き続く

中国



回復に弱さ

インド・アセアン



緩やかな回復

自動車業界の現況

生産 回復基調

半導体の供給不足による減産 原材料価格の高騰

■四輪

日本 新車販売台数 4年ぶりの増加

米国 第2四半期以降回復

中国 第1四半期大幅減少

■二輪

インドネシア 需要 堅調に推移

インド 需要 堅調に推移

当社グループの取り組み

既存事業の競争力強化

EV/CASE領域の製品

環境、エネルギーソリューション分野の事業

生産変動への対応力の強化

業務の効率化

売上収益

2,189億39百万円

前期比
28.1%増

1,709億
71百万円

2,189億
39百万円

2021年度

2022年度

112.39円

為替レート
(1米ドル)

135.48円

営業利益

119億3百万円

前期比
18.4%増

100億
51百万円

2021年度

119億
3百万円

2022年度

112.39円

為替レート
(1米ドル)

135.48円

税引前当期利益

136億41百万円

前期比
14.2%増

119億
44百万円

2021年度

136億
41百万円

2022年度

112.39円

為替レート
(1米ドル)

135.48円

当期の業績

親会社の所有者に
帰属する当期利益

95億66百万円

前期比
11.9%増

85億
51百万円

2021年度

95億
66百万円

2022年度

112.39円

為替レート
(1米ドル)

135.48円

事業別売上収益

■ 四輪

■ 二輪

1,175億
57百万円

構成比
53.7%

1,013億
81百万円

構成比
46.3%

2022年度



湿式多板アシスト&スリッパークラッチ



湿式多板クラッチ

二輪車用クラッチ



乾式遠心クラッチ



湿式遠心クラッチ

売上収益

1,013億81百万円

810億
12百万円

2021年度

1,013億
81百万円

前期比
25.1%増

2022年度

営業利益

94億19百万円

82億
87百万円

2021年度

前期比
13.7%増

94億
19百万円

2022年度



FR10速AT用クラッチ



HEV用オーバードライブ
クラッチ



CVT用スタートクラッチ

四輪車用クラッチ



ロックアップクラッチ用
ツインダンパー



4WD切替デフクラッチ

売上収益

1,175億57百万円

899億
59百万円

2021年度

1,175億
57百万円

前期比
30.7%増

2022年度

営業利益

42億93百万円



2021年度



2022年度

対処すべき課題

■今後の経営環境 短期■

ウィズコロナ 景気は緩やかな持ち直し期待

下振れリスク
国際情勢 物価上昇 サプライチェーンの混乱

■今後の経営環境 中長期■

サステナビリティへの意識の高まり

デジタル技術の進展 一層加速

会社・事業の変革が求められる

第12次中期経営計画基本方針

2030年を目線に会社・事業を転換を進め 第二の創業を実現



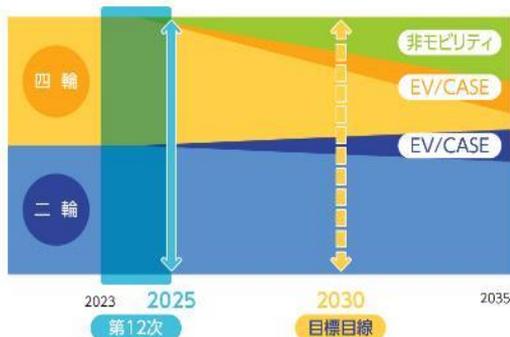
事業方針

- 1 新規事業創出の実現と、仕込みの継続
- 2 選択と集中で、事業収益を最大化
- 3 DXにより、付加価値の質を変革
- 4 イノベーションを生み出す基盤づくり

「第二の創業 新しいFCCへ」

2030年を目線に

事業構造転換



全社戦略 事業ポートフォリオ転換と経営基盤の強化

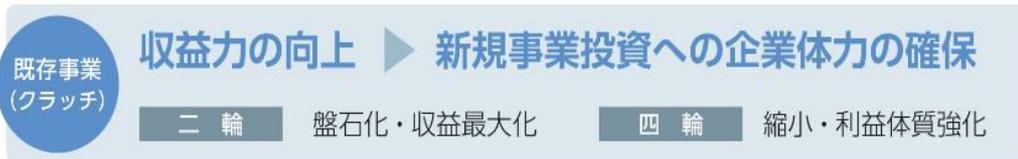
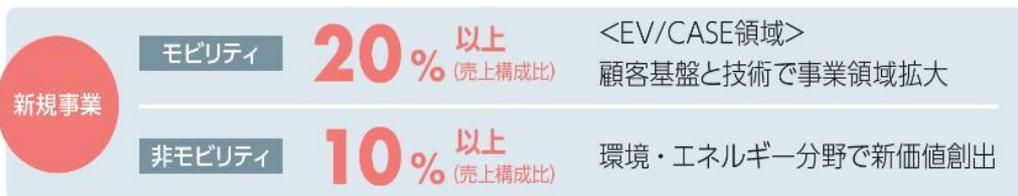


事業ポートフォリオ転換

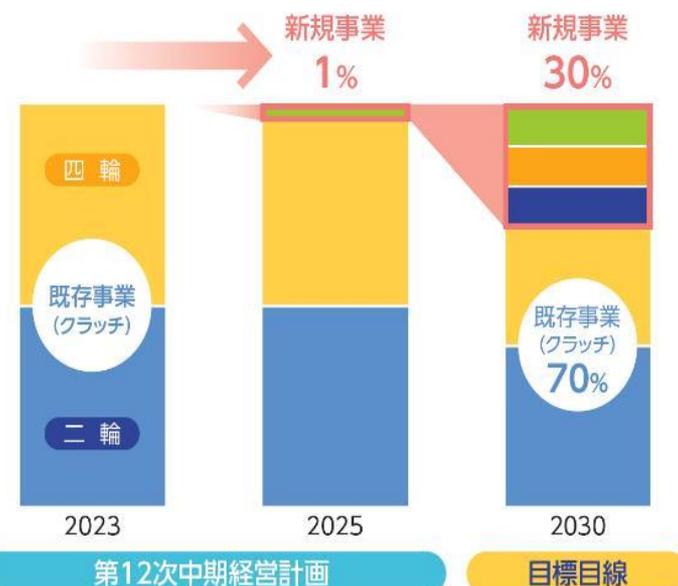
事業構造転換（ポートフォリオ）

選択と集中により、クラッチ事業収益力の向上を土台とし、新規事業を創出
モビリティと非モビリティ領域で新たな価値を提供し続ける企業へ転換

事業構造転換 | 2023 ▶ 2030 |



モビリティと非モビリティ領域で新たな価値を提供し続ける企業へ転換



事業戦略（二輪事業）

顧客基盤と技術を活かしたEVパワーユニットの事業化と、CASE事業の創出
クラッチトップシェア × 価値ある技術とグローバルものづくり総合力で、収益最大化

二輪事業

新規事業

- ◎ CASE事業開発加速
- ◎ 小型EV向けパワーユニット事業化

既存事業
(クラッチ)

- ◎ 廉価・高付加価値技術とものづくり競争力による収益最大化

目 標

2025年時点

EV/CASEの
仕込みが完了

ありたい姿

2030年

EV/
CASE

売上

250億円

クラッチ

現状以上の
売上・利益

新規事業(CASE領域)

◆CASE事業開発加速

- ▷ FCCコア技術と顧客基盤を活かし
製品・ソリューション両面での価値創出を図る

◆小型EVパワーユニット事業化

- ▷ 小型・差別化技術とインド/アセアンを軸とした強固な
グローバル生産基盤により、EV市場への橋頭堡を築く

既存事業（クラッチ領域）

◆廉価・高付加価値技術の磨きこみ

- ▷ DXと自動化による技術進化を確立させる

◆標準化・最適化によるコスト競争力強化

- ▷ 仕様の標準化と設備共有化による最適生産で、
原価低減を図り、NEXT市場拡大を図る

事業戦略

事業戦略（四輪事業）

モータコアSUBモジュール事業参入を皮切りに、コア技術を融合・具現化し、CASE市場における新たな価値を創出するコンポーネントメーカーを目指す

四輪事業

新規事業

- ◎ モータコアSUBモジュール事業参入
- ◎ CASE製品・事業開発の加速

既存事業
(クラッチ)

- ◎ 生産減少を見据えたボトム体質構築とリソースシフト

目標

2025年時点

EV/CASEの
仕込みが完了

ありたい姿

2030年

EV/
CASE

売上

200億円

クラッチ

市場減でも
利益の出る体質

新規事業(CASE領域)

◆モータコアSUBモジュール事業参入

- ▷ 保有技術とグローバル生産基盤を活かし、差別化技術開発を進め、将来事業の柱化を目指す

◆CASE製品・事業開発の加速

- ▷ 既存事業で培ったコア技術による提供価値の多角化（アルミダイカスト付加価値、異材接合、熱マネジメント）

既存事業（クラッチ領域）

◆生産減少を見据えた*ボトム体質構築とリソースシフト

- ▷ 選択と集中による徹底的な固定費の削減
- ▷ 製品・地域軸での集約/効率化戦略

*生産量が構造的減少を迎えても利益が出る体質づくり

事業戦略 (非モビリティ事業)

カーボンニュートラル及びSDGs 実現に向け、環境・エネルギー分野での事業化と社会課題解決につながる新事業の創出で、事業多角化へ向けた基盤を作る

非モビリティ事業

新規事業

- ◎ サークュラーエコノミー分野事業化推進
- ◎ エネルギーソリューション分野事業化推進
- ◎ 新しい価値を生み出す多様な事業創出と風土醸成

目標

2025年時点

既存テーマ拡大と
創出活動の
展開により売上

30億円

ありたい姿

2030年

確立した事業の
海外展開等により売上

270億円

新規事業(非モビリティ領域)

FCCコア技術
(ケミカル・メカ)
を融合

×

積極的な
協業

◆サーキュラーエコノミー

▷水と大気の浄化、循環システムに繋がる製品・ソリューション

◆エネルギーソリューション

▷創エネ、蓄エネ、省エネと熱マネジメントを活用した
エネルギーソリューション (燃料電池、触媒等)

◆新しい価値を生み出す多様な事業創出と風土醸成

▷コトビジネス
▷社内創出文化醸成、海外ニーズに合わせた新事業展開

財務戦略・目標

健全な財務の維持

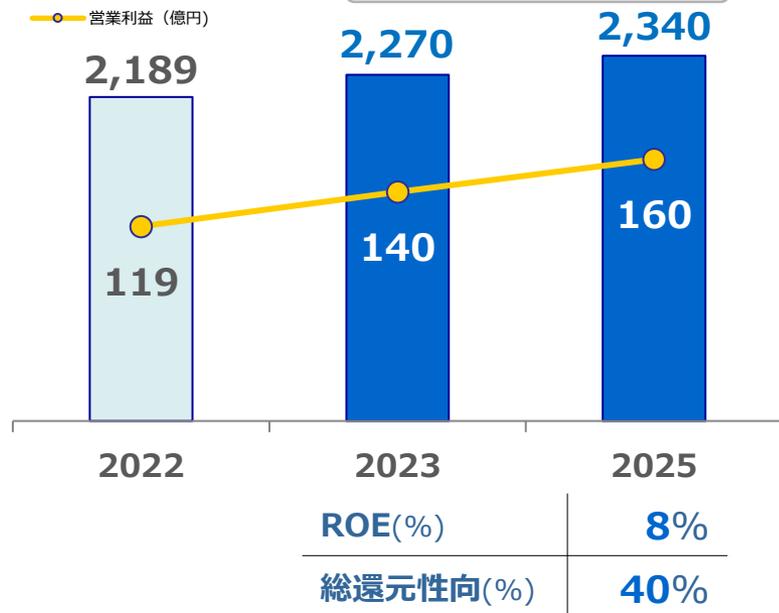
クラッチ事業で創出したキャッシュを、成長投資へ重点的に振り分け

総還元性向40%

● 主要経営指標

■ 売上収益 (億円)
● 営業利益 (億円)

第12次中期計画



● キャッシュ・アロケーション (3年合計)



サステナビリティへの取り組み

🔧 サステナビリティ（ESG）への取り組み

サステナブルな社会実現に貢献し、企業価値を向上させることを基本方針として定め、ESG領域において、下記の取り組みをグループ一丸となって推進

環境

生産領域でのCO₂排出量削減

- ◎ 省エネ徹底/新技術導入
- ◎ 再エネの活用拡大

サプライチェーンでのCO₂排出量把握と削減



社会

イノベーション創出のための 人材戦略の策定と推進

- ◎ ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- ◎ 人材ポートフォリオ

ガバナンス

ガバナンスの充実

- ◎ コーポレートガバナンス整備
- ◎ 健全なグループガバナンス体制向上

サステナビリティへの取り組み

環境 2050年カーボンニュートラル実現に向けて

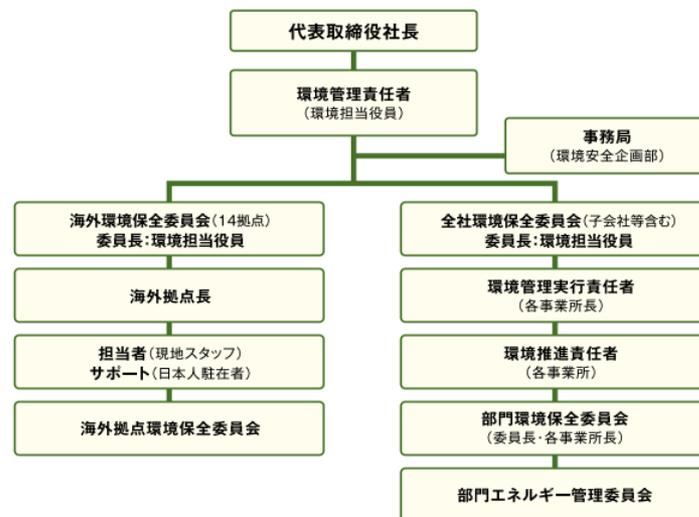
生産活動に伴う省エネ活動、再生可能エネルギーの導入、新規事業製品を通じて2030年CO2排出総量50%削減を、グループ全体で目指す

●CO2排出量削減ロードマップ

CO₂排出量削減ロードマップ



●グループマネジメント体制





第93回定時株主総会

議案

取締役(監査等委員である取締役を除く。)

6名選任の件

議案

取締役(監査等委員である取締役を除く。)6名選任の件

再任

齋藤 善敬

再任

鈴木 一人

再任

向山 敦浩

新任

中谷 賢史

再任

腰塚 國博

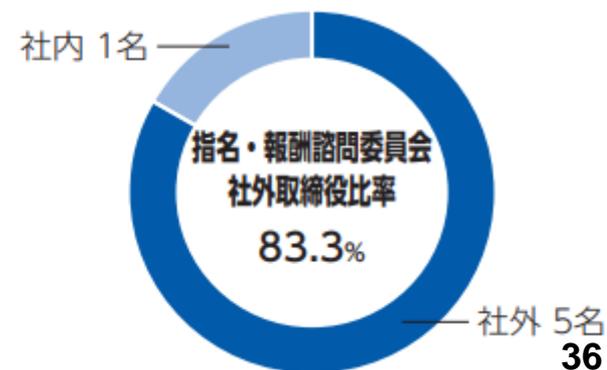
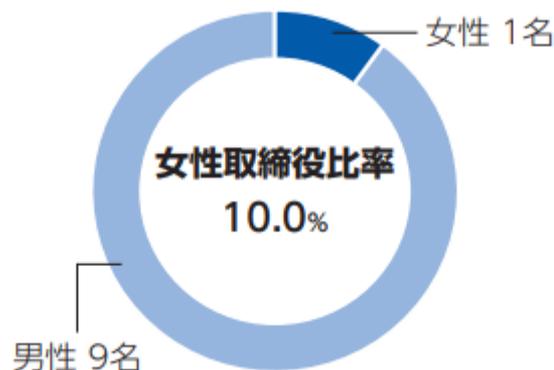
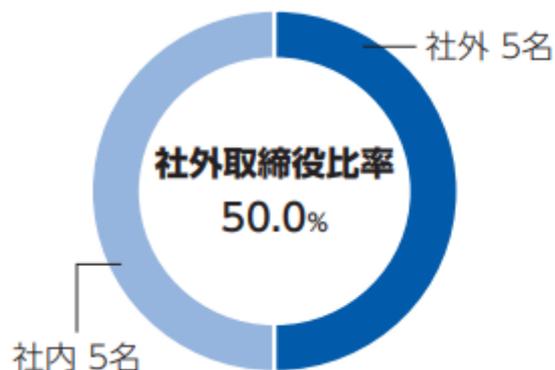
再任

小林 和徳

株主総会後の取締役会の体制

氏名	地位	指名・報酬諮問委員会	企業経営	製造/技術 研究開発	営業 マーケティング	事業開発 M&A	デジタル IT/ICT/DX	財務/会計	法務 コンプライアンス	グローバル 経験
さいとう よしたか 齋藤 善敬	代表取締役社長	○	●			●	●			●
すずき かずと 鈴木 一人	専務取締役		●	●						●
むこうやま あつひろ 向山 敦浩	常務取締役		●	●						●
なかや さとし 中谷 賢史	常務取締役		●		●					●
こしづか くにはろ 腰塚 國博	社外取締役	○	●	●		●	●			●
こばやし かずのり 小林 和徳	社外取締役	○	●		●	●				●
まつもと りゅうじろう 松本隆次郎	取締役 常勤監査等委員		●		●				●	●
さとう まさひで 佐藤 雅秀	社外取締役 監査等委員	○						●		
すぎやま かずもと 杉山 一統	社外取締役 監査等委員	○							●	
やまもと まゆみ 山本真由美	社外取締役 監査等委員	○						●		

(注) 各取締役の全ての知見や経験を表すものではありません。



事前質問

報告事項に関する質疑 議案の審議

議案の採決

議案

**取締役(監査等委員である取締役を除く。)
6名選任の件**



第93回定時株主総会